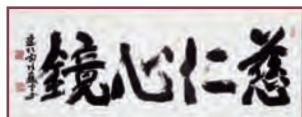




関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations

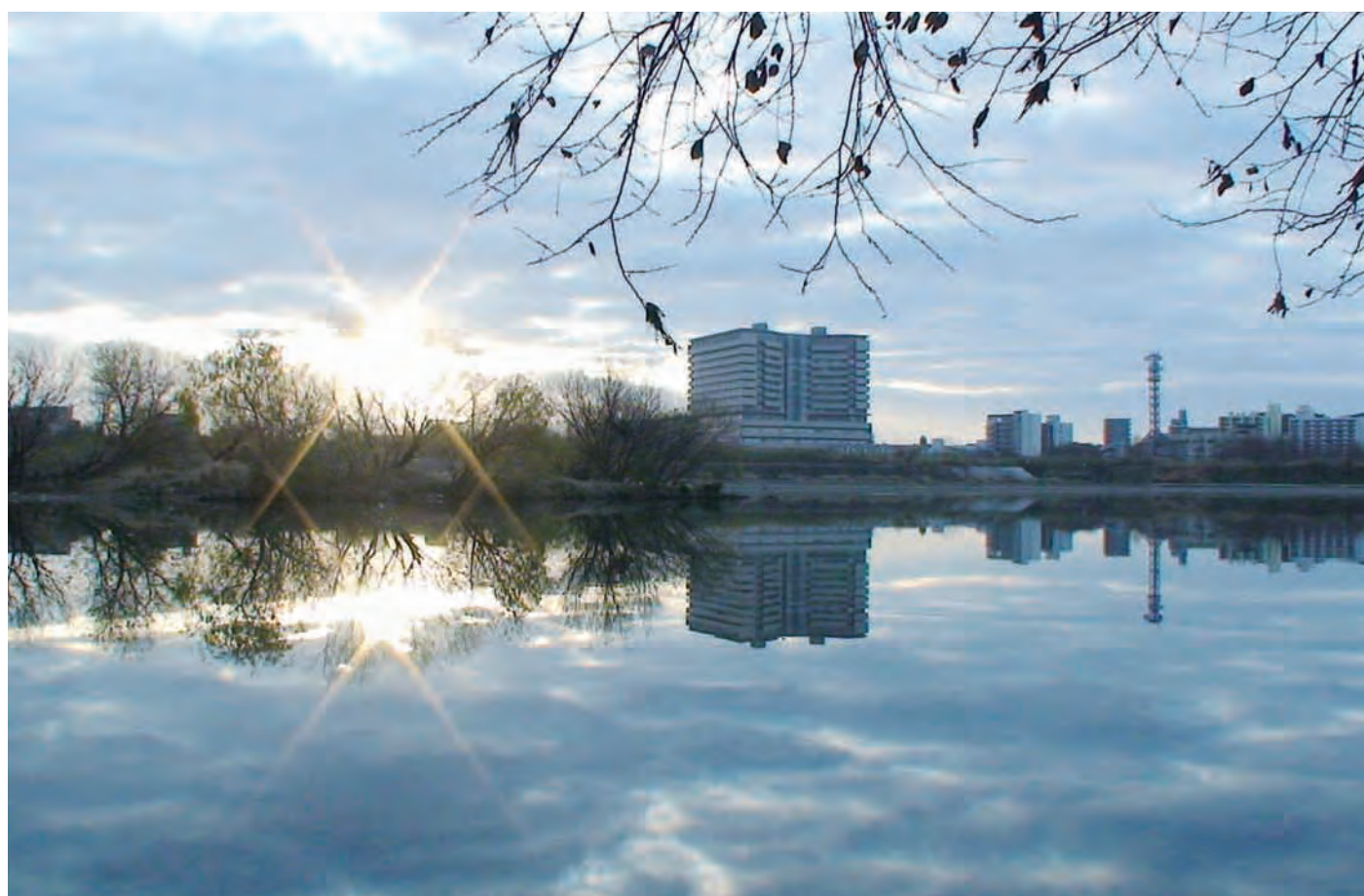


建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

新春 枚方暁色

陽光に輝く病院



水面に映える附属枚方病院、淀川河口から27.0kmの右岸地点から日の出を撮影
(2009年1月4日午前7時37分)

CONTENTS

年頭所感 理事長・学長	2、3	病院	9
法人“アクション21”中間報告	4	医療安全管理センター	12
学長アドホック委員会活動報告	5	卒後臨床研修センター	12
寄付関連	6	附属看護専門学校	13
大学	7	同窓会	14
学事	8	メディア情報	15

年 頭 所 感

法人総合施設整備計画の着実な実行を

理事長 塚原 勇

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

米国に端を発した金融経済危機の問題は、わが国にも影響を及ぼし、輸出関連企業のみならず多種の企業が不況に陥って、非正規雇用労働者を直撃し、社会不安との関連も指摘され始めました。

われわれに直結する医学、医療の問題に関しても、医療費抑制政策による病院経営の困難性の増大、新しい卒後臨床研修制度の改正実施による新研修医師の偏在、病院医師の負担過重等種々の問題が起ってきました。

また、本学は本学で、主として施設充実財政の問題を抱えています。本学では自学の内容をわが国で一流の水準、さらに国際的に見ても遜色のない医科大学とすることを目標として、まず施設整備に関して、平成11年9月に法人総合施設整備事業計画大綱方針を立てました。この方針に沿って実現した最初の成果が附属枚方病院の建設であり、平成17年8月に完工し、翌年1月早々に開院しました。本学としては、学外の方々に見ていただいても恥ずかしくない病院建築物の第一号であると考えています。開院後の成績も、私の予想以上に速やかに高水準に達しました。今村病院長をはじめ、病院全職員の努力に感謝しています。

附属枚方病院の建設に連動して、附属香里病院の閉鎖、附属洛西ニュータウン病院の他医療法人への譲渡等が起り、附属病院の再編成が行われ、さらに最近では附属男山病院の問題が起ってきました。

一旦閉鎖した附属香里病院については、当初は売却し、その収入を本学の施設整備基金の一部とする方向を指向しました。しかし、現地の市民の方々、寝屋川市当局の病院存続または新病院建設への強い要望があり、また、附属香里病院が戦後まもなく、大阪女子高等医学専門学校の大学昇格時に果たした歴史的役割を考え、売却を改め、規模は少し小さくなりますが、元の場所に新病院を建設することに变更されました。昨年（平成20年）6月23日に起工式が行われ、7月1日着工、平成22年8月に開院予定であります。地上8階、地下1階、病床数200床、診療科数は今のところ11科の計画です。

さらに今後の計画のメインは、附属枚方病院の隣に教育（看護学教育を含む）・研究棟を建設すること及び新滝井病院の建設があります。

これらの大きな計画を効率よく達成するのに最も重要なことは、対応し得る強固な財政基盤の準備であります。

現在の財政状況は最近の関西医科大学学報 第622号（平成20年12月号）に、岩坂壽二財務担当理事が報告



所信表明する塚原理事長（滝井地区にて）

されている通りであります。平成17年、18年、19年度の決算は3期連続赤字でした。その原因の主たるものは附属枚方病院建設時の借入金返済であります。赤字は年々減額していますが、平成20年度末には附属収支差額に黒字を計上すべく皆さんに尽力をいただいているところです。黒字に転換すれば、借入金返済額はこの2、3年のピークを過ぎて下降していきます。しかし先に述べましたように、予定の事業が続きますので、本学の皆さんのご苦労は続きます。皆さんにここで踏ん張っていただき、新年の決意も新たに、その時々目標到達に努力していただくことをお願いし、同時にお元気で、充実した幸せの中で過ごされることをお祈り申し上げます。



年 頭 所 感

教育、人材育成に重点を置く行動年

学 長 山 下 敏 夫

新年明けましておめでとうございます。教職員の皆様には初春を迎え、気持ちを新たにされ、今年こそ良い年でありますように願っておられることと思います。

本学は昨年創立80周年を迎え、これを好機として、新たに中・長期経営ビジョンを立てました。世の中そして医療界が激動している中、このような時こそ、本学は軸を決してぶらすことなくこのビジョンを強い意志と行動力で達成しなければなりません。ビジョンの全貌は80周年記念式典で示しましたが、今回はその中から教学関係の展望を年頭の所感として述べさせていただきます。

本学の発展への必要性から、本学は特にこの10年くらい、財政面に重点を置いた経営方針をとってきたため、教育・研究、特に教育にかける財政面の比重が相対的、絶対的に軽くなっていました。それが少しずつ本学への受験志願者数の減少、今一步の国試合格率、卒後本学に残る若手医師数の減少、科研費採択率の低下といったことに繋がってきていると思います。

本学の教育力や研究力の低下を明確に阻止し、さらにこれを強化するための大きな方策は新学舎建設・統合による教育と研究環境の整備であることは言を待ちません。ただこれだけで全てが解決されるわけでもありません。

ここで今一度、私どもの原点に立ち戻ってみたいと思います。本学の使命は「人間性豊かな良医の育成」であります。今年学長として新学舎建設推進に加え、教育、人材育成に重点を置き、行動したいと考えています。

具体的な施策として「入試センター」の設立やオープンキャンパスの充実、今年からの10名の入学定員増に伴うカリキュラムの変更と手厚い奨学金制度の制定などを考え



所信表明する山下学長（枚方地区にて）

ています。また、教育医長制度を新設し、臨床実習教育の充実を図ることや、研修医手当を大幅に増額することで、良い研修環境を作り、研修医の増員を目指します。

また、専門研修での大学病院間連携などのカリキュラムの充実、シミュレーション教育推進、女性医師支援などを積極的に行い、それらを統括するキャリアパス部門を卒後臨床研修センター内に新設します。さらに、本学の意欲的な中堅医師を世界のトップの医療施設に臨床留学させ、世界で通用する医師を育成する、いわゆる「スーパードクター制度」を発足させました。本年春に募集し、来年度から実施に移ります。

大学院関係では専修医として大学で働きながら医学研究を行い、専門医と学位の両方を得ていただく臨床系社会人大学院制度を新たに発足させ、また基礎研究力向上のために大学院に修士課程を新設します。

これらの教学に関する諸施策を、皆様と力を合わせて1つ1つ実行していく決意です。ご協力をお願いいたします。

滝井・枚方で新年賀詞交換会 理事長・学長が所信表明

平成21年の本学新年賀詞交換会が仕事始めとなる1月5日（月）午後2時から滝井地区（看護専門学校を含む）は病院6階臨床講堂で、午後3時30分からの枚方地区（教養部・附属男山病院を含む）は13階講堂で、塚原勇理事長、山下敏夫学長、徳永力雄常務理事、そして教職員多数が参加して行われました。

滝井・枚方の両会場とも塚原理事長、山下学長の所信表明があり、「今年も厳しい年となりますが、財政基盤の安定化を」と新年に当たっての決意と教職員への協力を述べられました。＝写真は、枚方地区での新年賀詞交換会



“Action 21” 中間報告

5領域、21チームで課題に挑戦中

常務理事 徳永 力雄



本学は、昨年創立80周年を迎え「中長期経営ビジョン」として“アクション2015 行動する関西医大”および“ジャンプ2020 飛躍する関西医大”を発表しました。これに沿って、平成20年度の目標を実行する作業チーム“Action 21”を立ち上げました。以下に、20年11月時点での活動状況を報告いたします。

「教育・研究領域」は、4つの学長アドホック委員会が、各課題を検討しました。Action 1(卒後研修プログラム改善)は、初期研修と専門研修の研修プログラムの改正及び専門研修の連携施設の拡大充実を図ったほか、初期研修における内科関連病院とのたすきかけを検討しました。Action 2(大学院制度改革)は、臨床系社会人大学院制度と修士コースを新設し21年度から実行する。Action 3(女性医師支援)はアンケートによる意見聴取、院内保育所充実、短時間正規職員制度、などを検討中です。Action 4(専門医育成制度)は、若手医師を国内外の優れた先進医療施設へ派遣する“高度医療人育成制度に関する規程”を制定し平成22年度実施が決まりました。

「医療事業領域」では、Action 5(大阪北東部地域医療連携網の再構築)において滝井病院登録医制度を導入し、各附属病院診療日程表の地区医療機関への一括送付、講座同門会及び兼務先医療機関との連携強化案を策定しました。Action 6(附属病院の機能分担)は、準備段階で検討はこれからです。Action 7(医療の質・医療安全・患者満足度の向上)は、滝井病院患者満足度調査を行い、関連規程を見直した。Action 8(附属枚方病院改善)は、脳卒中の地域連携パスを構築し、消化器がん・循環器疾患・糖尿病の地域連携パスを関係団体と試行または構築中です。在院日数短縮は20年度上期13.9日を達成、ほかに緩和ケアチーム・がん相談支援系の活動、服薬

指導算定率向上を推進している。

Action 9(附属滝井病院改善)は、登録医制度、病診連携、在院日数短縮、IT化促進、トラベル外来、患者・職員満足度調査、研修医時間外外来研修、等を実施または強化した。Action 10(男山病院)では、外来化学療法加算I・一般病棟7対1看護・麻酔管理料算定(以上で約9千万円の改善)を開始した。

「施設整備事業領域」のAction 11(枚方キャンパス学舎集約事業計画)は、“枚方新学舎基本構想(案)”を策定し、基本計画・設計等の期間をステップ1として平成22年8月までに行うことが常任理事会で了承された。Action 12(香里病院開院準備)は事業計画・病院基本理念と方針、機器備品調達予算、等を決定した。

「財務領域」においては、Action 13(財務5カ年計画)により、長期資金収支シミュレーション・21年度予算編成方針を策定し学内周知をはかった。Action 14(予算管理)は、経営情報の拡充・迅速化のための月次収支実態把握の強化、業務委託費・医薬品診療材料費削減(約3,400百万円の改善)、等を行った。Action 15(外部資金獲得推進)では、募金窓口や広報体制を強化し実績(約1億4千万円)をあげた。

「人材育成・人事給与領域」のAction 16(人材育成)では各種職員研修会を実施、Action 17(職場復帰支援)では復帰前研修・短時間正職員制度の検討、Action 18(人事給与制度改革)は人事給与制度案説明会等を実施した。

「経営・管理領域」のAction 19(法人経営・執行体制)では、寄付行為・常任理事会規則・経営会議体の見直し、Action 20(組織・業務プロセス改善)は、人件費削減と人員配置点検・看護師採用体制の強化、Action 21(法令遵守・内部統制)では20年度内部監査、19年度内部監査報告に基づく改善提案の追跡調査を実施した。

以上の活動により、20年度収支において総計2億9千万円の改善が見込まれます。今後とも懸案事項の解決と推進に向かってさらなる努力を期待しています。

初期臨床研修医の処遇改善

今年4月1日から初期臨床研修医への給与支給額を10万円アップすることになりました。また、学長アドホック委員会で、プログラムの見直し(例:協力型研修病院の増加、専門研修を見据えた研修内容、指導医充実など)等を検討中です。

<21年4月以降>

研修医基本給21万円+研修医手当10万円+当直手当5万円(平均月5回) = 約36万円と交通費手当、住宅手当を支給

<従来>

研修医基本給21万円+当直手当5万円(月平均5回) = 約26万円と交通費手当、住宅手当を支給

学長アドホック委員会 平成20年度活動報告

学長 山下 敏夫

学長アドホック委員会は緊急または重要な学内の諸課題に対して、学長主導で特定の目的に絞った委員会を随時組織し、短期間で課題の解決を目指すものです。なお、委員は職域を問わず横断的に構成されています。

まず一昨年の夏に4委員会（12作業部会）が立ち上げられ、その中間報告はすでに一年前に行いました。今回はその後の進捗状況を報告します。さらに昨年の夏から秋にかけて6つの委員会が新たに発足したので、その設立目的と成果についても報告します。

1.新学舎建設推進委員会

新学舎の機能、規模、資金計画などの素案を3つの作業部会で策定し、建設推進を図った。その結果、法人の中・長期計画（アクション 2015）に本計画が組み入れられました。

2.医師確保対策委員会

入学時対策として、卒業後本学に勤務する医師を優遇するため新貸与奨学金制度を制定しました。卒前対策としては、臨床実習のカリキュラムを改正し、またその充実のために新たに教育医長制度を制定しました。卒後対策として、研修医の給与を大幅に増額し、かつ交通費と住宅手当を支給し、研修医確保を図りました。また、初期専門研修での大学病院間や大病院との連携プログラムを作成しました。

3.外部資金獲得委員会

競争的資金獲得に関しては、科研費の申請・採択率向上のための諸施策を実行し、その大幅増加を達成させました。また大学レベルでの大型プロジェクトの獲得や、経常費補助金増額対策として、種々の施策を打ちました。一方、全学を挙げてグローバルCOE獲得に努力しましたが採択に至りませんでした。産学連携推進に関しては、「シーズ集」など3つの小冊子を作成し、また「健康」など具体的な目標を定めて、その産学連携の推進を図りました。

4.学部収支改善対策委員会

財務部に「募金室」を新たに設置し、募金活動の強化を図りました。また「無駄を無くそうキャンペーン」や「ノー残業デー」を実施して、光熱費、備品購入費、印刷費の削減に一定の成果をみました。

5.大学院活性化委員会

若手医師の専門医志向や卒後臨床研修必修化に伴い、全国的にも、また本学でも大学院学生数の減少傾向が止まりません。そこで本学の研究力の維持、向上のためにも大学院活性化が必須と考え、この委員会が作られました。成果として、大学院に修士課程を新たに作ることを決定し、将来他の総合大学との共同大学院コース新設に備えました。さらに臨床系社会人コースを新設し、専門医と学位の両方取得しやすい道をつけました。

6.女性医師支援委員会

女性医師が医師全体の1/3を占める状況や医師不足問題を考える時、本学でも女性医師が働きやすい職場環境を整備することは喫緊の課題であり、本委員会が立ち上げられました。成果として、本学に勤務する女性医師にアンケート調査を行い、その結果を基に、病児保育受入れや短時間労働正職員制度について前向きに検討することとしました。また、卒後臨床研修センター内に復帰支援を含めた「女性医師支援部門」を新設しました。

7.高度医療人育成委員会

意欲的な若手・中堅医師を国内外の超一流の医療施設に臨床留学させ、最先端の診療技術や診療体制を習得し、世界で通用する医師を育成すると共に本学の診療レベルの向上を目的とします、いわゆる「スーパードクター制度」を発足させるため本委員会は設置されました。まず「関西医科大学高度医療人育成制度に関する規程」を作成し、それに則り、本年6月締め切りで留学生を募集し、来年4月以降に数名が臨床留学する運びとなります。

8.看護教育検討委員会

校方新学舎の基本構想で、看護専門学校を新学舎内に設置することが計画され、そのため同校の将来構想の策定が必要となってきています。そこで本学の看護師教育のあり方や看護師確保などについても、この際合わせて検討することが必要と考え、本委員会が設立されました。成果として、本学看護専門学校の将来を見据えた望まれる施設規模の基本案を作成しました。また看護師確保の一方策として看護学科が設置されている他大学と、「看護実習の受入れと就職斡旋」などを内容とした大学間協定を結ぶことを計画中です。

9.キャリアパス委員会

文部科学省の大学病院連携型高度医療人養成推進事業に、本学が参加する2つのプロジェクトが採択されたことを踏まえ、卒後臨床研修センターの中に「キャリア形成サポート部門」を新設し、プロジェクトの実施、さらには本学の医師、看護師のキャリア形成支援を持続的に行うシステムを構築しました。

10.シミュレーション教育推進委員会

近年、シミュレーションによる教育技法が医学教育においても重要と考えられるようになってきました。本学でもシミュレーション教育を推進する必要があると考え、本委員会が設置されました。成果として、卒後臨床研修センター内のキャリア形成サポート部門に臨床シミュレーション課を新設しました。また本学のシミュレーション教育に必要な機器を5年間にわたり計画的に整備することを決めました。さらに新学舎にシミュレーションセンターを設置する必要性を確認し、その実施に向けて、先進的な他大学の取り組みの調査を開始しました。

法 人

企業・法人からの寄付は損金算入されます

■国の施策として、学校法人への寄付が促進されています

近年、私学を取り巻く環境が厳しさを増す中で、各学校法人では経営基盤の強化が喫緊の課題となっています。そのための有効な手段の一つとして、文部科学省も寄付金の募集を推奨しています。また、学校法人への寄付を促進するための様々な税制上の優遇措置が整備されています。

寄 付 金

平成20年度施設設備整備拡充事業資金へご寄付いただきました方々のご芳名を掲載して感謝の意を表します。（平成20年11～12月分）

〈個人〉
高折 洋 様 山中 伸弥 様
岩崎 悦子 様

■ご寄付いただいた場合の優遇措置は次の2種類です ～法人の場合～

1) 受配者指定寄付金

受配者指定寄付金とは、私立学校の教育研究の発展に寄与するために、日本私立学校振興・共済事業団を通じて寄付者（企業等）が指定した学校法人へ寄付していただく制度です。

●損金算入額●

寄付金額全額が損金算入されます。

●法人税申告に必要な書類●

①寄付金受領書（日本私立学校振興・共済事業団発行）

※大学と私学事業団との間で行う手続きに時間を要しますので、受領書送付まで2ヶ月近くかかります。決算期にはご注意ください。

2) 特定公益増進法人寄付金

本学は、教育または科学の振興、文化の向上、社会福祉の貢献その他公益の増進に著しく寄与する法人として、「特定公益増進法人」の認定を受けています。

特定公益増進法人に対する寄付は、税制上の優遇措置（寄付金控除）の対象とされており、一般寄付金とは別枠で損金算入されます。

●損金算入額●

寄付金額のうち、一般寄付金の損金算入限度額と特別損金算入限度額の合計額までが損金に算入できます。計算式は次のとおりです。

一般損金算入限度額 = (資本金等 × 0.25% + 当該年度所得 × 2.5%) × 0.5

特別損金算入限度額 = (資本金等 × 0.25% + 当該年度所得 × 5.0%) × 0.5

例えば…◎資本金が5,000万円、所得が4,000万円の場合の限度額 合計1,625,000円

一般損金算入限度額 (125,000円 + 1,000,000円) × 0.5 = 562,500円

特別損金算入限度額 (125,000円 + 2,000,000円) × 0.5 = 1,062,500円

●法人税申告に必要な書類●

①寄付金受領書（関西医科大学発行）

②特定公益増進法人証明書（写）

ご寄付をいただき次第、上の2点を送付します。

これから決算期を迎える法人の方々には、上記税制優遇措置をご活用いただき、本学への寄付をご検討下さいますようお願いいたします。

<お問い合わせ・照会> 大学事務局募金室 TEL:06-6993-9556 URL:<http://www2.kmu.ac.jp/bokin/>

大 学

女性医師支援アンケート調査結果

子育て支援、育児後の復帰支援、労働条件改善を

「病院に保育所があったら利用する」「フレックスタイム・ワークシェアなら勤務したい」が8割を占めました。本学の女性医師に対して行ったアンケート調査の結果です。男性医師の意識改革をも期待し、全医師に配布されました。そこで、アンケート結果の一部を紹介してみましょう。

この調査は、女性医師が医師全体の3分の1を占める状況や医師不足を考える時、本学でも女性医師が働きやすい職場環境を整備することは、喫緊の課題として「女性医師支援委員会（委員長・今村洋二）」を学長アドホック委員会の直轄として昨年夏に立ち上げられ、早速、昨年8月25日～9月19日の期間、本学女性医師（出向者を含む）231人にアンケート調査を行ったものです。回収は、150人で、回収率64.9%でした。

基本質問事項のうち、「配偶者の有無」については「いる」47%、「いない」49%で半々、「子供の有無」は、「いる」31%、「いない」65%と「いない」と答えた人が倍以上いました。

一般的質問事項では、「女性医師に対して周囲が理解してくれていると感じますか」の問いに「はい」が約7割でした。「医師としてキャリアを積む上で、支援を欲しいと思ったこと」の是非欲しかった項目には、「子育て支援」「子育て後の復帰支援」「勤務労働条件の改善」が上位3位を占めました。

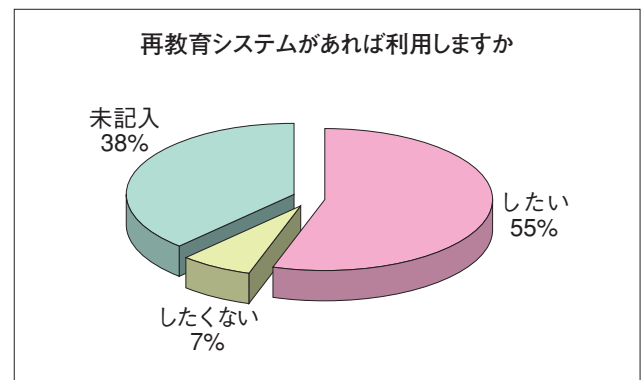
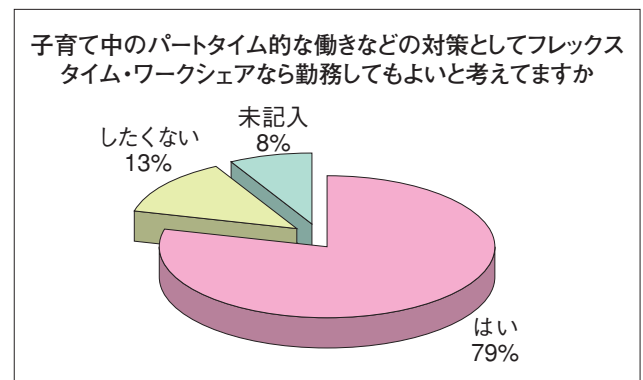
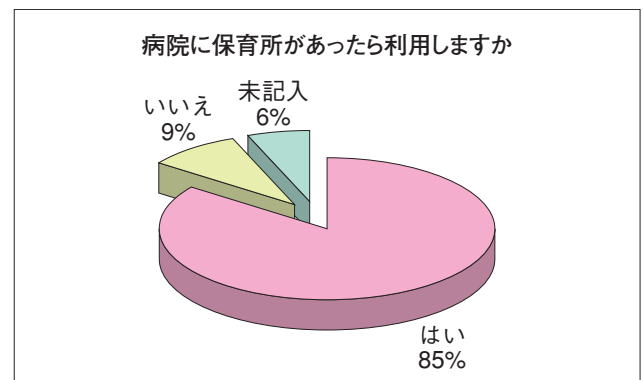
「勤務の病院に保育所があったら子育ての時期に利用したいと思いませんか」の問いには、85%の女性医師が利用したいと答えています。理由は、「早期に仕事復帰できそう」「保育時間を気にせず仕事ができる」「すぐ様子を見に行ける」「業務に専念できる」「仕事が遅くなっても対応しやすい」などです。

「子育て中のパートタイム的な働きなどの対策としてフレックスタイム・ワークシェアなら、勤務してもよいと考えますか」には、約8割が「したい」と答え、理由は「働き方の多様性を取り入れていくべき」「手術から離れたくない」「子供の帰宅に間に合わせたい」などとなっています。

「復帰支援の対策として再教育システムがあれば利用されますか」に対しては、半数以上の医師が「したい」としていますが、「未記入」が38%あり、態度を決めかねている姿がうかがえます。利用したいと回答した具体的な理由としては、「復帰に自信がなく復職をあきらめることになることに

なる」「休職期間が長くなると、とても不安になる」「実技的なことが大きなハードルとなる」「金銭面もある程度補助されるなら」など。一方「したくない」とした理由は、「再教育を受けるほど仕事を離れたくない」「システムの内容がわからないからなんともいえない」など。

大学では、アンケート結果をもとに院内保育所充実、短時間正規職員制度、などを検討しています。



教育医長制度が発足

教育医長制度とは、学生の卒前臨床教育、研修医の卒後研修の充実を図ることを主な目的として、臨床系各講座に教育医長を任用する制度です。平成21年1月から開始

されましたが、全国の医科大学でもみられない制度です。

教育医長は、学生および研修医の臨床教育・指導、出欠管理、研修評価などを行います。本学で准教授・講師に昇格する場合は、教育医長の経歴を有することが原則となります。

学 事

平成21年度推薦入学試験 結果

試験 日：平成20年11月23日(日)
場 所：関西医科大学滝井キャンパス
選考方法：小論文、適性検査、面接
合格発表日：平成20年11月28日(金)

募集人員	20名
志願者	52名
受験者	52名
合格者	18名

国試対策講演会・懇親会を開催

自治医大の小林教授が講演

医師国家試験受験を控えた学生を対象に、11月14日(金)午後6時から守口ロイヤルパインズホテルで国試対策協議会、慈仁会、同窓会の共催による国試対策講演会が開催され、山下敏夫学長、金子一成代表世話人、藺田精昭教務部長を始め、加多乃会の鮫島美子会長、同窓会の四方伸明副会長、教職員約15名、学生93名が参加しました。

講師には自治医科大学分子病態治療研究センター臓器置換研究部の小林英司教授を迎え、「医師国試対策ゼミ ザ・ナイター夢の実現へ!」と題し、約1時間に渡って講演がありました。また、小児科の木下洋准教授からも本学の臨床研修内容について講演がありました。

講演会后、同ホテルにて午後8時から激励を兼ねた懇親会が開かれました。多くの学生や教職員が参加し、教員からの応援メッセージを受けた学生が国家試験合格率100%を誓い、盛会裏に終わりました。

大学院教育ワークショップ

FDのあり方など四つのテーマ
活発なグループ討議

第2回大学院教育ワークショップは12月20日(土)に、専門部学舎において山下敏夫学長、木梨達雄大学院教務部長、中村加枝、中邨智之、日下博文、岡崎和一各教授、仲野俊成准教授、柁木龍一講師のタスクフォースをはじめ本学教員33名の参加を得て開催されました。

今回は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の森内浩幸教授を招き、「感染症の研究と教育の国際化を通じて大学院の充実を図る～長崎はアジアへ向けて開く21世紀の出島～」と題して長崎大学における教育・研究の推進状況についての講演があった後、①大学院教育FDのあり方、②成績評価基準の明示／厳格な成績評価・修了認定、③COEに続く先進的な研究体制の維持、④大学院活性化の方策の4つのテーマに分かれてグループ討議を行いました。第1回大学院教育ワークショップでの討議、検討を踏まえ、さらに学内の大学院改革の動向を受けて、活発な討議が繰り広げられ、議論が深まった点や実現に向けての意見が多くあり、有意義な討議が行われました。

和やかに留学者発表会・交歓会

本学に留学する研究者と留学生の発表会・交歓会が12月22日(月)、守口ロイヤルパインズホテルにおいて留学者11名と山下敏夫学長はじめ教職員8名の参加を得て開催されました。

留学者発表会は、午後4時から、留学研究賞授与の後、留学者からの自己紹介に続いて、研究活動の内容、自国の文化、本学での生活など多様な内容を盛り込んだ発表があり、教員との質疑応答が行われ、終始和やかな雰囲気で行われました。引き続き、教職員との親睦と、留学者を激励する目的で交歓会が開催され、盛会のうちに午後7時に終了しました。

また、留学者発表会における内容等を審査し、上位3名に優秀賞の贈呈を行いました。受賞者は次のとおり。

- 1等賞 石 明 (病理学第一講座 大学院2年)
- 2等賞 陸 景珊 (医化学講座 大学院3年)
- 3等賞 李 一 (脳神経外科学講座 大学院1年)



山下学長を囲んで記念撮影

平成20年度関西医科大学留学研究賞

大学院生・熊正梅さんが受賞

本学の留学生、留学研究者が本学に滞在中に所属教室から発表した優秀な研究論文を褒賞するため、10月に募集を行い、応募論文を国際交流委員会で審査した結果、次のとおり授与が決定しました。授与式は12月22日(月)の留学者発表会の席上において執り行われ、山下敏夫学長から賞状並びに副賞として名前入りのクリスタルクロックと賞金が授与されました。

被授与者 熊 正梅(薬理学講座 大学院4年)

論文題目 Protective effects of A β -derived tripeptide, A β ₃₂₋₃₄, on A β ₁₋₄₂-induced phosphatidylinositol 4-kinase inhibition and neurotoxicity

病 院

附属枚方病院

医療訴訟ガイダンスを開催

11月27日（木）午後5時30分から、13階講堂において大阪地方裁判所第20民事部による「医療訴訟ガイダンス」の講演会が開催され、学生5名を含む240名の参加者がありました。

裁判官4名から「医療訴訟の概要」「医療従事者と医療訴訟」「医療訴訟における医療従事者の協力」をテーマとした講演が行われましたが、質疑応答では今年導入される裁判員制度にも触れた活発な質問もあり、盛会裏に終了しました。



質問に答える大阪地方裁判所の裁判官

看護部主催で市民公開講座

12月6日（土）午後2時から13階講堂において、「冬に差が出る!お腹の脂肪よ さようなら メタボリック 生活習慣病

予防」をテーマに、看護部・認定看護師会の主催による市民公開講座が開催され、講堂の定員150名を上回る多くの市民の皆さんの参加がありました。

参加者には事前に別室で血糖、血圧や体脂肪、BMIの計測も行ってもらい、より現実味を帯びた状況で講演を聴いていただきました。

健康科学センター木村稔准教授による「メタボリックシンドロームと生活習慣病について」をテーマにした講演の後、宮内拓史トレーナーからは「生活習慣病のイメージ」を、大北沙由利看護師からは「生活習慣病のセルフチェック」を説明してもらい、その後は田嶋佐和子栄養士による「ウエスト-3cmの食生活」をテーマにした正しい食事の取り方、宮内トレーナーから「手軽にできる正しい運動」をテーマにした実技指導もあり、参加した皆さんには日頃からの生活習慣病予防についての重要性を認識していただきました。



生活習慣病予防がテーマ。多くの市民が参加

～大学関係者のための知的財産の話～

知財セミナーで新たな認識と知識蓄える

12月24日（水）午後5時から滝井キャンパス南館臨床講堂において、講師に佐田洋一郎山口大学教授（知的財産部門長）を迎え、平成20年度第1回知的財産セミナー「大学と特許～大学関係者が知っておきたい知的財産の話～」が開催されました。学内関係者及び北大阪商工会議所会員の方々40数名、参加されました。

特許庁において、33年間の審査・審判実務経験をお持ちの佐田先生ならではの発明のポイント、医療分野における特許対象の具体的な領域についての説明、特許範囲の誤認しやすい部分、特許取得に必要な要件などの説明がされました。

参加者からは、『大変わかりやすい内容であった』との声が多く寄せられました。印象に残ったフレーズとして『発明の特徴は引き算で見つける』『技術力だけで

はない特許性の判断』が最も多く挙げられました。特許に対する新たな認識と知識を蓄える充実したセミナーでした。

産学連携知的財産統括室では、知的財産に関するセミナーを順次、開催致しますので皆様の参加をお待ちしております。



講演する山口大学・佐田教授

病 院

附属枚方病院

「ラブリーナース・キャンペーン」体験記

優秀賞・中村さん、佳作の吉田さん、清水さん 入賞者3名に聞く

「看護の仕事と生きがい」をテーマに多くの体験記が寄せられた中、当院の3名もの看護師さんが入賞しました。医療の現場で健康を支えてくれる看護師たちを激励し、その活躍を顕彰する「ラブリーナース・キャンペーン」（主催＝産経新聞社、後援＝大阪府医師会、大阪府病院協会、大阪府私立病院協会、大阪府看護協会）の一環として産経新聞社が公募したもので、選考結果と入賞作品が11月29日（土）付の朝刊に掲載されました。受賞したのは優秀賞に女性診療科病棟の中村桐子さん、佳作には小児科病棟の吉田志津加さんと医療安全管理部の清水由紀子さんの2名。そこで、今回、受賞者に応募のきっかけや喜びの声などを語ってもらいました。

優秀賞の中村さんは、「患者さんとの出合いを振り返るきっかけになれば」と応募理由。「経験を表現しました。仲間から気持ちが伝わってきたと声をかけられたことはうれしかった。後輩からは、そんな看護をやってみたいと思われることが、うれしさに繋がります」と言う。看護の仕事は、「辛いこともあります。でも、人間対人間だから温かみがあるし、いろんな出合いがあることが楽しい」と15年間を振り返る。

吉田さんは、「改めて看護について考えることができました」。受賞の知らせを聞いた時は「びっくりしたけど、新聞

に載った日、奈良の同期の友達から久しぶりに電話があり、離れていても連絡もらえたことはうれしかった。書いてよかったと思った瞬間」とか。「自分自身の生き方を成長させてくれるいい職業」と笑顔を見せる。

清水さんは、「本当に看護をしているのか、迷っている時期で、振り返るのにはちょうどよかった」、また、看護には、直接携わらない医療安全管理部の職場にいるが「病院として取り組んでいることを世間の人にわかってもらいたかった」。「辛いこともあるけれど、その分学ぶこともある。人が好きなら、この職業を」とニコリ。



喜びの中村さん（中央）と吉田さん（右）、清水さんの三人

第5回臨床検査セミナー

「糖尿病」「インフルエンザ」の2題

12月15日（月）に13階講堂において第5回臨床検査セミナーが開催されました。

今回は高橋伯夫臨床検査医学講座教授の座長により、当院の小崎篤志代謝科科長による「糖尿病治療の最前線」とデンカ生研の酒井伸夫氏による「インフルエンザ総合対策」についての2題の講演があり、滝井病院にも同時中継が行

われ、枚方病院では100名の参加者がありました。

以下は臨床検査部からのコメントです。アンケート結果では、「糖尿病、インフルエンザについて勉強になった。」「盛り沢山なため、テーマを絞ってもっとゆっくり聞きたかった。」など多くの意見がありました。今後も臨床検査の最新情報を含みながら、より必要で身近な臨床検査として役立つセミナーを開催しますので、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。次回は2月末～3月中旬を予定しております。

臨床検査部・鈴木技師の講演



冬期エコGメン活動中

3月末までの間、週1回程度、腕章を付けた「エコGメン」が病棟を除く各部門を巡視します。

室内温度は、20℃が目安。使用後の部屋のエアコン・照明はこまめに消灯する。長時間使用しない場合OA機器は電源OFF。病院関係者の階段利用の推進。

病 院

附属滝井病院

「登録医制度」今月から開始 地域医療機関と連携を密に

地域医療機関と緊密な医療連携を図り、患者さんに一層きめ細やかな医療サービスを提供することを目的とした「登録医制度」を今年1月から開始しました。

登録医を希望する医療機関は、登録医届出書を病院長に提出してもらうことになっています。登録医に対しては、契約書を取り交わし、登録医証を交付するとともに名札を発行します。

登録医は、主治医と患者さんの同意のもとに、当院へ来院して、以下の医療情報を取得することができます。

- 1.診療録・検査データ・画像資料等を院内で閲覧
- 2.手術・診察・検査を見学
- 3.入院の場合、訪問を行い患者、主治医、看護師と面談
- 4.紹介患者さんの症例検討会等の勉強会に参加

その他、院内開催の学術集会、セミナー、講演会等の参加、大学附属図書館での蔵書・オンラインジャーナルの閲覧などの優遇措置が受けられます。

このほど「登録医の公募について」の案内を守口市医師会の先生方に発送しました。今後、段階的に対象地域を広げていく予定です。

教育委員会を設置

職員の幅広い知識習得と人材育成を目的とした研修会の企画、立案、評価及びこれら院内教育の一元管理など適正な管理・運営を図るために、このほど教育委員会が設置されました。委員長には、耳鼻咽喉科部長・北尻雅則教授が就任されました。附属枚方病院教育委員会は平成18年12月1日に設置されています。

2年ぶりの成人式、病院長から記念品

大学としては2年ぶりの成人式が、1月9日（金）午前11時から院長室で行われました。

成人式を迎えたのは、平成20年4月1日入職の4S病棟看護師・西坂仁妙さん（昭和63年3月生れ）。高橋伯夫病院長からお祝いのメッセージと記念品が手渡されました。



高橋病院長と握手する看護師の西坂さん

クリスマスイベント 3題

★★ 附属枚方病院 ★★ クリスマスコンサート

12月20日（土）午後2時30分から開院後3度目となるクリスマス・コンサートが2階エントランスホールで約260名の患者さんが集い、盛大に開催されました。昨年に引き続き大阪国際滝井高等学校吹奏楽部の皆さん総勢60名により、クリスマスソングを中心に元気いっぱいの演奏が行われ患者の皆さんも憩いのひと時を過ごしていました。

★★ 附属滝井病院 ★★ クリスマス会

12月6日（土）午後2時から6階臨床講堂で恒例のクリスマス会が開催されました。第1部：キャンドル作り ハンドベルで楽しみましょう、第2部：クリスマスコンサート 関西医科大学混声合唱団コールクライスの内容で多くのボランティアが参加、高橋伯夫病院長自らがサンタに扮するなどイベントを盛り上げ、患者さんも楽しいひと時を過ごしていました。



★★ 附属男山病院 ★★ クリスマス手作り音楽会

12月13日（土）午後1時30分から昨年同様に職員によるクリスマス手作り音楽会＝写真＝を開催しました。参加人数は150名で入院患者、通院患者、地域住人も多数参加、盛大に行われました。

職員によるハンドベル演奏、ダンス、ギター演奏、合唱、福引、お茶席などのイベントがありました。今回は職員だけでなく、地域住人による南京玉簾やハーモニカ演奏も加わり、大変楽しい時間を皆と過ごすことができました。

医療安全管理センター

第5回医療安全大会 三元中継、約400人が参加

11月28日（金）、塚原勇理事長、山下敏夫学長が臨席のもと、附属3病院合同の医療安全大会が開催されました。本大会は、大学職員の医療安全に関する知識の向上を図る事を目的にしているもので、大学情報センターの協力



満員の盛況、活発な議論が行われた枚方会場

を得て、枚方病院の講堂と合同カンファレンスルーム、滝井病院の本館6階臨床講堂を三元中継して行われました。

参加者は、枚方会場 243人、滝井会場 152人の計 395人（枚方 227人、滝井 150人、男山 6人、大学その他 12人）でした。なお、各病院からの演題は、以下のとおりです。

【附属滝井病院】「薬剤関連有害事象防止とチーム医療」薬剤部 弥山秀芳、「院内感染対策の活動報告」感染対策室 竹之内春美

【附属男山病院】「内服管理アセスメントスコアシートを導入して」安全対策室 笹木真理子、小谷幸子

【附属枚方病院】「転倒による骨折予防のための転倒ハイリスク患者抽出スケールの検討」看護部 林えりか、「電子カルテシステム アレルギーチェック機能改善について」大学情報センター・医療情報部 夜野敏明

3会場とも満員の盛況で、活発な議論が行われました。なお、講演会の様子は学内の端末からはイントラネットの講義・講演会動画コンテンツで視聴することができます。

卒後臨床研修センター

平成20年度臨床研修指導医養成講習会 研修医指導への対応学ぶ

平成20年度臨床研修指導医養成講習会が、11月29日（土）～30日（日）の2日間（1泊2日）、神戸市の「スペースアルファ神戸」において開催され、参加者が研修医を指導する上での知識を学びました。

厚生労働省が認めた講習会の受講が今春から研修指導医となるための必須条件となっており、この講習会もその一環。本学各附属病院を中心に関連病院の医師ら33名が受講しました。ディレクターには、聖路加国際病院・福井次矢病院長、チーフタスクフォースとして名古屋大学・伴信太郎教授を迎え、その他、病院指導医らスタッフ17名が参加、ワークショップ形式で、全体討議、グループワーク、ミニレクチャーを交互に繰り返して進行されました。

講習会では、研修目標・研修方法・指導員のあり方・研修評価などについてのワークショップを通して臨床研修指導のあり方を理解し、また卒後臨床研修におけるカリキュラムの立案能力ならびに望ましい指導方法を習得するなど、参加者にとって有意義な2日間となりました。

講習会修了者に対しては、厚生労働省医政局長から公式認定の修了証が交付されました。



全体討議で熱心に議論する受講者たち



参加者全員で記念撮影

附属看護専門学校

癒し誘う キャンドルサービス

看護学生（29期生）感想文

12月17日（水）午後4時40分から附属滝井病院で恒例のキャンドルサービスが行われました。幻想的な炎が辺りを包み込む。附属看護専門学校生255名が、病棟・病室を訪問、入院患者さんにクリスマスカードを手渡しました。今回、初参加の29期生に感想文を書いてもらいました。

キャンドルサービスに参加して 立花 美穂

私が始めにカードをお渡しした患者さんは、全盲で聴力も低下している方でした。手を握ってカードを手渡したものの、私の声は患者さんには聞こえておらず、授業と2回の実習を通してコミュニケーションの方法を十分に学んだはずなのにどうしたら良いのか分かりませんでした。結局、看護師さんに代弁して頂くことになり、学んだことを活かさず悔しい思いをしました。また、他の患者さんのように、幻想的なロウソクの灯を見て涙を流したり、合唱に耳を傾け美しいと感じることが困難な、その患者さんに対し私に何かできる事があったのではないかと強く感じました。些細な事でも何かを感じて頂ければ良かったです。

キャンドルサービスに参加して 吉田 理沙

初めてのキャンドルサービスは、とまどいと胸が高まる気持ちでいっぱいでした。夏休みに一生懸命作ったクリスマスカードと、初めて白衣で燭台を持ち患者さんの所へいくのが、私にとってはナイチンゲールの看護の原点のように実感できました。貴重な体験になりました。「ありがとう」と患者さんに言われた時、ますます看護師になりたい気持ちが高まりました。この貴重な体験を胸に、今後も日々精進していきたいです。

患者様のことば 表 綾乃

私が初めて参加したキャンドルサービスは、とても幻想的で素敵なものでした。1年生から3年生まで、200以上の光は滝井病院の病棟をあたたかい光とあたたかい雰囲気包み込んでいました。

私がクリスマスカードを渡した患者様の中に、去年もキャンドルサービスを見た方がいらっやあって、その患者様に「今年もキャンドルサービスがあると聞いてとても楽しみにしていたんですよ。いつもありがとうございます」ということばを頂き、夏休み前からクリスマスカードの準備をしていた甲斐があったし、とても嬉しかったです。

キャンドルサービス 菅野 陽子

病室に入ると、座っておられる患者様、臥床したまま酸素吸入をされている患者様、ニコニコ笑顔で居て下さった患者様、たくさんの患者様に会いました。手作りのカードを手渡し、何度も「ありがとう」と笑顔で言っておりました。手渡しができず、枕元に置くことしかできない場面もありました。ほんの少しでもいいので、その患者様の気分転換、あるいは、癒しとなって欲しいと願います。病室から出て来られ、私たちの歌うクリスマスソングをずっと聴いて下さった患者様、ご家族の方。これからも、温かい心を伝えて行きたいです。

幻想的！
255名の炎
壮観



同 窓 会

平成21年度 関西医科大学同窓会研究助成募集

第27回 関西医科大学同窓会50周年記念研究助成「加多乃賞」

この研究助成は、同窓会が後進の研究者に対してさしのべる援助の一つとして、同窓会創立50周年を記念して創設されたものです。

賞金 6件以内 各50万円

第17回 関西医科大学同窓会「佐々木千枝子(ささきちえこ)賞」

本賞は本学1回生の佐々木千枝子氏が学術振興に役立てたいとご寄付くださった基金による賞です。

賞金 1件 100万円

第15回 関西医科大学同窓会「森本園子(もりもと そのこ)賞」

本賞は、本学12回生の森本園子氏が学術振興のため、または医療をもって社会に貢献している個人または団体に役立てたいとご寄付くださった基金による賞です。

森本賞	賞金 1件	100万円
医療功労賞	賞金 1件	100万円

第8回 関西医科大学同窓会「北西壽子(きたにし としこ)賞」

本賞は本学15回生の北西壽子氏が学術研究振興のため、寄贈された基金による賞です。

賞金 2件以内 各100万円

第7回 関西医科大学「櫻根啓子(さくらね ひろこ)賞」

本賞は本学16回生の櫻根啓子氏が関西医科大学に寄贈された寄付金の一部を同窓会が委託され、関西医科大学の医学研究振興のため、優れた研究および重要な教育・研修を助成することを目的としています。

優秀研究論文	賞金 1件	100万円
--------	-------	-------

*科学研究費補助金を申請したものに限り

国外学会発表	大学院生	賞金 4件以内	各25万円
--------	------	---------	-------

国外臨床実習	医学部学生	賞金 5件以内	各20万円
--------	-------	---------	-------

*国外学会発表・国外臨床実習申込書は大学学務課へ提出

第6回 関西医科大学同窓会「藤原登美子(ふじわら とみこ)賞」

本賞は本学7回生の藤原登美子氏が学術振興のため海外留学または海外出張に役立てたいと寄贈された基金による賞です。

海外留学助成	賞金 2件以内	各50万円
--------	---------	-------

海外出張助成	賞金 4件以内	各25万円
--------	---------	-------

第6回 関西医科大学同窓会「塩崎安子(しおざき やすこ)賞」

本賞は本学19回生の塩崎安子氏が医学・看護学の教育・研究に従事している個人または団体を対象としてその業績に役立てたいと寄贈された基金による賞です。

賞金 2件以内 各50万円

第2回 関西医科大学同窓会「和田喜代子(わだきよこ)賞」

本賞は本学14回生の和田喜代子氏が医学・医療・福祉振興のために役立てたいと寄贈された基金による賞です。

和田喜代子賞	賞金 1件	100万円
--------	-------	-------

和田喜代子優秀業績賞	賞金 1件	100万円
------------	-------	-------

和田喜代子奨励賞	賞金 2件以内	各100万円
----------	---------	--------

第2回 関西医科大学同窓会「丹家雛子(たんけ ひなこ)賞」

本賞は本学10回生の丹家雛子氏が医学・医療・福祉振興のために役立てたいと寄贈された基金による賞です。

丹家雛子賞	賞金 2件以内	各100万円
-------	---------	--------

丹家雛子医療奨励賞	賞金 2件以内	各50万円
-----------	---------	-------

丹家雛子交付奨学金(5学年を対象)	賞金 2件以内	各50万円
-------------------	---------	-------

*交付奨学金申込書は大学学務課へ提出

申込期限 平成21年3月31日

交付希望者は、同窓会事務局備え付けの申込用紙に必要事項を記入し提出してください。
同窓会ホームページには、各賞受賞者・交付規定・申込書が掲載されていますのでご参照ください。

関西医科大学同窓会 <http://priv.kmu.ac.jp/dousou/>

TEL06-6993-0121 FAX06-6991-6221

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。
（平成20年11月21日～1月20日）

志田有子 健康心理士 （心療内科学講座）	毎日新聞 朝刊 11月23日（日） 11月30日（日）	続・女性の健康50話 第35話 心の状態をみる、第36話 構えないで大丈夫
中村 桐子 看護師 （附属枚方病院看護部）	産経新聞 朝刊 11月29日（土）	「看護の仕事と生きがい」体験記が優秀賞を受賞、中村桐子さんの作品が掲載されました。また、同じく附属枚方病院看護師の吉田志津加さんと清水由紀子さんの二人が佳作を受賞しました。
柳本 泰明 助教 （外科学講座）	日経メディカル 12月号	特集「癌治療の最先端」の免疫療法について「癌ペプチドワクチン 評価の土俵へ」と題した記事が掲載されました。
永田 基樹 助教 （耳鼻咽喉科学講座）	読売新聞 朝刊 1月11日（土）	口やのど、鼻などにできる頭頸部がんを巡る現状についてのインタビュー記事が掲載されました。

メディア情報をお待ちしています

教職員の方々がメディアに登場された場合に掲載させていただきます。このコーナーは、皆様からの情報提供によって構成されます。テレビ出演が予定されている時は、前もって下記の情報連絡先までお願いします。なお、このメディア情報欄に紹介するのは、朝日、産経、日経、毎日、読売の5

大紙およびNHK・毎日・朝日・関西・読売の各テレビ局、主要な月刊誌、週刊誌等に取り上げられたものに限らせていただきます。

情報連絡先

総務部広報課 電話 06-6993-9672（内線 2138）
mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

平成19年度内部監査「追跡調査」結果報告

内部監査室では、このほど、平成19年度内部監査「追跡調査」結果報告書を理事長、学長、理事、監事、被監査部署、総務部長、学部事務部長、用度部長、監査担当者らに配布しました。

内容は、次のとおり。

1.追跡調査項目：

(1)平成19年度内部監査項目

「①本学経理規程に定める内部監査②未収金処理及び機械装置の選定から利用状況」の報告書に記載された監査人からの改善提案・指摘事項の改善状況

(2)同報告書に記載された被監査部署からの要望事項の改善状況

2.追跡対象部署：

- (1)学部
- (2)附属枚方病院
- (3)附属滝井病院
- (4)附属男山病院
- (5)被監査部署からの要望事項に関わる部署

3.目次：

- (1)平成19年度内部監査追跡調査について
- (2)平成19年度内部監査報告事項の改善状況
 - ①監査チームからの指摘事項
 - ②被監査部署からの要望

4.原本保管場所:内部監査室

滝井キャンパス1号館5階

なお、「平成19年度内部監査追跡調査について」と題した稲垣内部監査室長名のコメントには「全体として改善方向への努力は行われているものの、具体的な規定・文書化、マニュアル作成などの作業は遅れている。今後、これらの継続的業務改善に向けての作業が加速されることを期待する。」と記されています。一歩一歩であっても教職員の協力で改善を推し進めましょう。

お知らせ

創立80周年記念誌 いよいよ発刊へ

創立80周年記念事業の総仕上げとも言える記念誌「関西医科大学八十年の歩み-最近20年の沿革-」がいよいよ2月中旬に完成、発刊することになりました。

塚原勇理事長が「関西医科大学80年の歩み-最近20年の発展-」、山下敏夫学長は「大学の将来展望-飛躍そして夢-」をテーマに序文を執筆。その他の内容を紹介します。



<目次>

- 第1章 略史
建学の精神「慈仁心鏡」の誕生をめぐる
元学長 田代 裕
本学創設から80年間の略史
- 第2章 最近20年の歩み
学事の歩み、人事の歩み、施設の歩み、財務状況、
教養部(牧野キャンパス)の歩み
専門部(滝井キャンパス)の歩み、大学院医学研究
科の歩み
- 第3章 教室の歩み
32講座、1科、9教室
- 第4章 附属施設の歩み
附属枚方病院、附属滝井病院、附属男山病院
附属看護専門学校、(旧)附属香里病院、
(旧)附属洛西ニュータウン病院ほか
- 第5章 関係機関の歩み
医学会、関西医科大学同窓会、慈仁会、財団法人
大阪マーチャングイズ・マート・メディカルセンター、白
菊会
- 第6章 思い出
回想
思い出すまに
功名誰復論
創立80周年を迎えて
関西医科大学附属枚方病院の
計画・建設から運営のあゆみ
- 第7章 資料・年表
- 鮫島 美子
森井 外吉
西 宝
名越 あつ子
今村 洋二

4月から滝井キャンパス敷地内全面禁煙

4月1日(水)から滝井キャンパス敷地内が全面禁煙になります。附属滝井病院敷地内禁煙に連動して実施されるものです。このため、専門部学舎中庭(1号館及び2号館の間)の喫煙場所は、3月31日(火)をもって閉鎖されます。

健康の保持・増進のため、また受動喫煙防止の観点から、喫煙家の方は、これを機会に禁煙してはいかがでしょうか。

「関西医科大学 広報」年4回発行
原稿お寄せください

広報誌は、今春の創刊号(5月25日)を皮切りに、臨時号として創立80周年記念号(6月25日)、Vol.2(8月30日)、Vol.3(12月1日)そして今回のVol.4新春号を発行することができました。

この広報誌は、関西医科大学と教職員、学生、同窓生、保護者を結ぶコミュニケーションツールの一つです。年4回、季刊号として発行する予定です。皆様からの記事の提供、企画などありましたら、連絡よろしくお願ひ致します。次号は5月に発行します。

編集後記

今年の正月は、初日の出を撮ろうと決意。大晦日から天気予報を気にしながらカメラの準備。頭に描いていたのは、附属枚方病院の背後、生駒連峰山間から真ん丸い日が昇ってくる朱色の太陽。よく写真で見ると初日の出シーンです。元旦、夜明け前に撮影スポットで待機、ようやく明るくなってきて日の出時刻になりました。しかし、厚い雲に覆われ太陽は顔を出さず。初日の出を見るために来ていた若者、数人も帰って行きました。何枚か撮影して帰宅。三が日曇りが続き、なかなかチャンスがありません。諦めきれず、4日にまた出かけました。今日こそは。日の出時刻、空が暁に輝きました。「ヤッター」と思ったが姿を現しません。元日より薄い雲ですが隠れたまま。7時半過ぎやっと雲間から一条の光が川面を照らしました。失意泰然の心です。

さて、今回は理事長、学長に年頭所感を書いてもらいました。本学の目指すべき道が示されています。また、「Action 21中間報告」「学長アドホック委員会活動報告」を読んでいただければ、さらに具体的な方向性が見えてくると思います。私も“アクション”と“アドホック”の密接な関連をこの原稿を読んで初めて知りました。是非、ご一読ください。

世の中、思うようにいかないのが当たり前です。それでもチャレンジ。YES WE CANとは、アメリカ新大統領が盛んに使いました。「失意泰然得意淡然」を考える今日この頃です。(M.N)

関西医科大学広報 Vol.4

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課

〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15
Tel 06-6992-1001 (代表)
Fax 06-6993-5221

http://www.kmu.ac.jp
E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp
平成21年1月30日(金)発行